

平成27年度 村上市社会科部 活動報告

部長 高橋 路子

1 研究主題

資料をもとに、自分の考えを表現する指導方法の工夫

2 研究の概要

期 日	会 場	種別	活 動 内 容
4月28日	総合文化会館	部会	活動計画作成 研究主題の決定
8月21日	生涯学習推進センター	部会	指導案検討会
11月17日	村上市立金屋小学校	部会	授業研修会「平和で豊かな暮らしを目ざして」 授業者 金屋小学校6学年担任 加藤 雅晃 教諭 指導者 金屋小学校 校長 捧 信之 様

3 研究の実際

○ 6年生「平和で豊かな暮らしを目ざして」

本時は、一人一人が自分たちで調べた資料をもとに、高度経済成長期の豊か度について4段階で表現した。その後、子ども同士の話し合いを通して、国民生活は豊かになった反面、公害等の社会問題も起きていたことを理解するという授業だった。子どもたちは、事前に大変意欲的に調べていて、それぞれがしっかりした根拠をもって話し合いに臨んでいた。次のような意見が発表された。

＜豊かになったといえる＞

- ・電化製品の普及率が高い。
- ・会社員の月収増、所得倍増計画。
- ・様々な電化製品の発明。
- ・家電が増え、生活が便利になり家族だんらんが増える。
- ・自動車普及率が増加。

＜豊かになったとはいえない＞

- ・工場増加による廃水汚染。
- ・公害の発生、増加。
- ・現在も苦しむ人がある。
- ・工場が増え、空気も汚れた。
- ・車の排気ガスでスモッグ。
- ・交通事故の死者数が増えた。



最後に、話し合いを通して豊か度の見方が変わったか確認をした。大きな変化は見られなかったが「公害もあるが、きちんと対策をしているので豊かと言えるのでは。」と見方が変わったり「自動車の普及で、便利で楽しくなり、今の幸せな暮らしがある。」と高度経済成長期を今の日本につなげて考えたりする子どももいた。

指導者の捧校長からは、「子どもが調べたことを話し、関連付けて発表ができていた。本時で考えが深まったのか、という疑問は残る。課題をより焦点化させることが必要。」とのご指導と、子どもが追求し力を伸ばす社会科の学習についてのお話をいただいた。

4 成果と課題

本時では、①単元を貫く学習課題の設定、②子どもたちの調べたい内容に沿った資料を整える環境整備、③考えを表現する場の保障としてのペアトーク、④事実と考えを区別させた発表などの手立てが立てられ、非常に有効に働いていた。これは「資料をもとに子どもに話し合い活動をさせたい」という授業者の強い願いを具現化するため、単元を通して取り組んだ手立てである。

また、地域の方から体験談をお聞きする場を設定したり、教科書から離れた題材を組み入れたり、児童に考えさせたいことを組み入れた単元構成も工夫されていた。

今後はより深まりをもたせるための話し合いを焦点化させる課題や手立て、子どもの追求を支える教師の出場などを考えていきたい。

